

頭痛の不思議

Benign hot bath-related headache

ねごろ神経内科クリニック 院長 根来 清
Kiyoshi Negoro

雷鳴頭痛は突然発症し1分未満で痛みの強さがピークに達する非常に激しい頭痛である。脳動脈瘤破裂に類似した頭痛で、原因として器質的疾患を有しない一次性雷鳴頭痛となんらかの原因を有する二次性雷鳴頭痛に分類される。二次性雷鳴頭痛の原因として、くも膜下出血、頭蓋内出血、脳静脈血栓症、未破裂血管奇形、動脈解離、可逆性脳血管攣縮症候群 (RCVS)、下垂体卒中、髄膜炎、第三脳室コロイド嚢胞、低髄液圧、急性副鼻腔炎などがある。

一方、入浴・温水シャワー、性交、排便、咳嗽、運動などを契機に、特に入浴に関連して雷鳴頭痛が生じることが知られている¹⁾⁴⁾。また、雷鳴頭痛の約10%は入浴が誘因とする報告もある。一部の症例で頭痛発症に少し遅れて脳血管攣縮、大脳白質病変、表在性くも膜下出血などが出現することが報告され、その結果、入浴・温水シャワー、性交、排便、咳嗽、運動などを契機に生じる雷鳴頭痛の多くがRCVSに伴うものではないかと推測されるに至っている³⁾⁵⁾。

Benign hot bath-related headache(良性入浴関連頭痛)

われわれは、2000年までに入浴・温水シャワーなどで重度の頭痛を短期間に繰り返した3症例を経験した。いずれも頭痛の性状が雷鳴頭痛であったことからくも膜下出血・脳動脈瘤など器質的疾患の可能性を強く疑い、MRI・MRA、脳脊髄液検査などを施行したが異常は認められなかった。入浴・温水シャワーなどの頭痛誘発因子を避けることで数週間後遺症なく自然軽快・消失した。このことから予後良好な特異な頭痛、「Benign hot bath-related headache(良性入浴関連頭痛)」と命名し報告した¹⁾。

代表例を呈示する。54歳女性。ある日、普段通り入

浴しようと、風呂桶に入った途端に頭全体に割れるような頭痛が生じた。ふらふら感を伴い5~10分間持続した。翌日、やはり入浴時に風呂桶につかる前にシャワーでお湯をかぶった途端に同様の頭痛が生じた。1分以内にピークに達し、非拍動性で光過敏、音過敏、悪心・嘔吐、回転性めまいは伴わず10分以内に消失した。その後の1週間毎日、浴室で掛かり湯をかぶっただけで頭痛が生じるため、この間恐怖で入浴することができなかった。近医から処方されたエルゴタミン製剤を1錠内服した後に入浴してみたが、やはり同様の頭痛が生じた。入浴せずに服を着たままで洗髪する際には頭痛は生じなかった。血圧その他の身体所見、神経所見、血液検査に異常はなく、頭部CT、MRI、MRA、脳血流SPECT、脳波に異常はなかった。1ヵ月後掛かり湯を試してみたところ頭痛は生じなかった。その後この頭痛は再発していない。MRAは頭痛発現初期の一度しか施行していない。

当時、この頭痛の発現機序として「外因性寒冷刺激による頭痛」を既往に持つ患者が2例含まれたことから頭頸部周辺の温度受容器過敏に関連すると推測したが、それ以上の機序は不明であった。その後、台湾の陽明大学神経内科のFuh, Liao, Chen, Wangらのグループが類似症例を多数集積し²⁾³⁾⁵⁾、「bath-related thunderclap headache」の名称で報告している³⁾。欧米からの報告はごくわずかであり、アジアからの報告がほとんどのため、アジア人に特有の頭痛と考えられている²⁾⁴⁾。最近の報告も含め、入浴に関連して生じる雷鳴頭痛の半数以上にRCVSに相当する脳血管攣縮が認められる、ただしその時期は頭痛発現から遅れて生じることが多いのでMRA撮像時期に注意を要する、RCVS合併例の中にposterior reversible encephalopathy